

○令和5年度 北海道「体験の風をおこそう」運動推進事業

「大雪スノーパークフェスティバル2023」

(R6.1.13 (土)・14 (日)・2.3 (土)・4 (日)・23 (金・祝) 24 (土))



体験の風をおこそう
最高の雪質で最高の体験を！

大雪スノーパークフェスティバル2023

全6回開催！

とき
2024
1/13 (土) 14 (日)
2/3 (土) 4 (日)
23 (金) 24 (土)
各日 日帰り(午前9時～午後3時)

ところ
大雪青少年交流の家

入場料: 大人 (保険料込) 500円
子供 200円

実施プログラム(予定)
クロスカントリースキー、スノーシューハイク、ソリ・チューブ遊び・雪遊び、テントサウナ、軽食(キッチンカー)、スノーラフティング、野生動物(熊・鹿等)のお話等

QRコード

◆目的

「いつでも」「だれでも」、時を忘れて、大雪のパウダースノーを楽しめる空間で、ウィンタースポーツの経験などを問わず、幼少期から大人までを対象として、大雪青少年交流の家で一日中思いっきり遊び、冬季の活動を体験します。また、環境教育の観点から、冬季を中心とした北海道の自然生態系の理解を促進する機会とします。

◆参加実績 (定員 200 名程度)

1月13日 日帰り 29名
14日 日帰り 35名
2月3日 宿泊8名 日帰り 34名
4日 日帰り 28名
23日 日帰り 105名
24日 日帰り 173名

◆運営協力団体

美瑛町 びえい白金温泉観光組合 富良野自然塾
丘のまちびえいDMO 展望花畑 四季彩の丘
outdoor sauna club 旭川市旭山動物園
国立日高青少年自然の家 ※順不同

◆プログラム

全6回開催の中で、連携団体の協力も得ながら、下記のプログラムの提供を行った。

①クロスカントリースキー (歩くスキー・森の探検隊)

・導入体験としてグラウンドで歩き方や滑り方の練習し、その後ツアーという形で森の中に入って自然の中を歩いてまわった。

②雪遊びコーナー・雪板体験

・法人ボランティアが中心となり、親子で雪遊び・ソリ・チューブすべり・雪板体験ができる場所を提供し、思いのまま身体を動かして雪遊びを楽しんだ。

③スノーシューハイク

・丘のまちびえいDMOの佐々木氏を講師としてお招きし、施設周辺のコースを自然環境や生態系の解説を織り交ぜながら散策をした。

④スノーラフティング

・展望花畑 四季彩の丘と連携し、グラウンドでスノーラフティングを提供した。

⑤テントサウナ

・outdoor sauna club と連携し、屋外でテントサウナの提供を行った。大人を中心に親子に対しても冬の北海道ならではの体験を提供できた。

⑥野生生物(熊・鹿等)のお話

・旭川市旭山動物園の坂東園長と富良野自然塾の岸上氏による、北海道の野生生物(主に熊と鹿)についての対談を実施した。コロナ禍を経て、アーバンベアが増加している現状などを踏まえ今後の自然体験活動を安全に行っていくための、正しい知識と理解を得る機会となった。

⑦鹿角クラフト

・旭川市旭山動物園のスタッフによる鹿角キーホルダーのワークショップを開催し、鹿角を用いたオリジナルのキーホルダー制作をした。ワークショップを通して、自然生態系の理解を促進する機会となった。

⑧軽食(キッチンカー)

・びえい白金温泉観光組合に協力を仰ぎながら、道内のキッチンカーに出展依頼をし、軽食の提供を行った。



◆事業運営・企画のポイント

- ・冬の施設開放型事業(ウインターフェスティバル)をイメージし、幼児から大人まで誰でも楽しめるプログラムが提供できるよう、昨年度実施した「たびうさぎファミリー～スノーパーク編～」の反省を踏まえながら事業企画を行った。また、白金温泉街の活性化という観点から、びえい白金温泉観光組合と打ち合わせを重ね、連携協力団体等の調整を行った。
- ・地域連携という観点から、美瑛町に協力を仰ぎ、インバウンド対応も踏まえ、運営協力者として美瑛町職員やALTの方に当日スタッフとして派遣いただいた。
- ・5、6回目の日程では、年間のたびうさぎ事業と連携し希望する家族は宿泊ができるようにし、6日間事業に参加しやすい環境を作った。

◆参加者の声(保護者・子ども)

- ・やさしく声掛けしてくれる人がいっぱいいて、いい気持ちになれたし参加する人のことをちゃんと考えてくれてすごく嬉しかったです。
- ・子供たちが楽しんでいてよかったです。雪板が、大人も楽しくずっとやりたかったです。
- ・スノーラフティングでめちゃくちゃゆれたり、ふきとばされて楽しかった。
- ・そりが急でおもしろかった。
- ・キッチンカーがあるのが良かったです。(お昼準備が楽だった)

◆事業の成果

- ①冬の施設開放型事業(ウインターフェスティバル)を通して、冬に屋外で遊ぶことの楽しさを体感してもらうことができた。また北海道の野生生物(主に熊と鹿)についての対談を通して、屋外フィールドにおいて安心、安全に自然体験活動を実施していく上での、正しい知識と理解を得る機会となった。
- ②全6回開催だったため、事業実施の度に反省・課題を洗い出し、その都度改善出来る部分は改善をし、反映をさせていく形で事業を推進していった。また、施設初の冬の施設開放型事業であった為、広報活動も含め手探りの状況であった。結果としては、第1回目では29名の参加者であったが、最終的には173名の参加があり、事業を重ねる毎に参加者を増やすことができた。